

科目名 水圏生物資源学特論 (2単位)

担当者氏名 小林万里

◆学習・教育目標

水産業とは野生生物を対象として行われる、最大の経済活動である。そのため、単に野生生物を保護するだけでなく、野生生物と人間社会との相互関係を考慮に入れた上で、持続的な利用を考えていく必要がある。また、野生生物の個体群生態学を考える上では、種間相互作用を考慮した系としての野生生物を考える必要がある。そこで、本講義では系としての野生生物と人間社会との関わり方を、水産業のみならず林業・農業も含め、最先端の実例を通して学ぶことを目的とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

水産業	野生動物	持続的利用	群集ネットワーク
保全管理	ゾーニング	群集生態学	生物間相互作用

◆授業の進行等について（単位制度に基づく授業の進行予定・内容）

回数	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	ガイダンス	授業内容の説明	
2	個体群から群集へ	漁業管理の古典理論とその限界の紹介	予告内容に関して予習すること
3	個体群から群集へ	生態系を考慮した漁業管理～生態系アプローチの説明	予告内容に関して予習すること
4	個体群から群集へ	多魚種管理の新たな理論の紹介	予告内容に関して予習すること
5	森林の管理と再生	種多様性の動態平衡のモデルの紹介	予告内容に関して予習すること
6	森林の管理と再生	森林のゾーニングと管理方法	予告内容に関して予習すること
7	森林の管理と再生	生物間相互作用を利用した森林の管理と再生についての紹介	予告内容に関して予習すること
8	群集生態学からの害虫管理	群集生態学の視点による害虫管理の実例紹介	予告内容に関して予習すること
9	群集生態学からの害虫管理	生物種間相互作用に関する群集生態学の最近の知見	予告内容に関して予習すること
10	群集生態学からの害虫管理	種間相互作用に基づいた害虫管理	予告内容に関して予習すること
11	外来種問題と生物群集の保全	外来種問題と生物群集の保全の考え方	予告内容に関して予習すること
12	外来種問題と生物群集の保全	生物多様性と群集の安定性	予告内容に関して予習すること
13	農業生態系の修復	コウノトリを核にした食物網の復元	予告内容に関して予習すること
14	群集ネットワークの保全	群集ネットワークの保全と応用群集生態学への展望	予告内容に関して予習すること
15	試験	試験の実施とその解説	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

新たな保全と管理を考える／大串隆之・近藤倫生・椿宜高(編)／2009年

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

魚をとりながら増やす／松宮義晴／2001年

◆評価の方法（レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト）

授業の後に毎回小テスト1回3点×15回＝45点 本試験は55点

◆その他受講上の注意事項

学部授業の水産資源学総論・水産資源管理学の授業を復習しておくこと